



(出石)

三原石田遺跡は、但東町の中央部、出石川と太田川の合流地点近くに所在する。統合中学校の建設に伴う確認調査の結果、太田川左岸で簡単な杭打ちによる護岸施設が検出された。

耕作土の下に広がる粘質の強い黒色土層が遺物包含層で、砂層が薄く交互に重なり合っている。遺物の分布は旧河道の護岸に沿つた約100mにわたり、奈良時代から平安時代にかけての

兵庫・三原石田遺跡

みはらいしだ

- | | | |
|---|---------------|----------------------|
| 1 | 所在地 | 兵庫県出石郡但東町三原字石田 |
| 2 | 調査期間 | 1100年（平13）9月～11月 |
| 3 | 発掘機関 | 但東町教育委員会・日本モンゴル民族博物館 |
| 4 | 調査担当者 | 金津匡伸 |
| 5 | 遺跡の種類 | 自然流路 |
| 6 | 遺跡の年代 | 弥生時代～中世 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

木簡は、遺物包含層から一点出土した。呪符木簡と考えられる。時期は土層観察と出土した土器により、平安時代後期から鎌倉時代と考えられる。この他の出土文字資料としては、墨書き土器一点がある。奈良時代後期の須恵器杯底部外面に書かれたもので、「大家」と判読できる。「大家」の墨書き土器は、但馬国内では他に豊岡市の立石岡田遺跡で一点確認されている。

8 木簡の釈文・内容

(1) □□ (符籙)

(217)×(22)×6 081

右側が割れ、下部が欠損しているが、頭部と左側に削りが見られる。文字は墨が流れてしまい、輪郭の盛り上がりだけが残存している。上部に梵字かと思われる墨痕があり、下部は「日日日日」・「日日日」などと読みとれる。符籙の一部であろう。

(金津匡伸)

